

▲昨今の議会存在の否定・歪曲の危険な動きと「志ある議員」が取るべき立場

戸田 - 10/12/12(日) 21:24 -

戸田が市民派議員MLや連帯ユニオン議員ネットMLに出したメールです。市民にもぜひ考えてもらいたい事なので、紹介します。(一部改訂)

現在、議員のみなさんに新たに危機感と問題意識を持っていただきたい事が発生しています。

それは河村市長の扇動や阿久根市長の暴走などに典型的な、

- ・地方議員は不要
- ・議員数は半分でいい
- ・日当制にすべき
- ・地域委員会で代替できる
- ・議員報酬や政務調査費を激減させろ、

というプロパガンダについてです。

阿久根市長の場合は、裁判判決に従わない・地自治法に違反して議会を開かず専決処分を繰り返し、「市長独裁制」を敷く、など、「市長が違法行為やりたい放題」を重ね、その都度全国ニュースで好意的に報道・扇動されるという、特に由々しき事態です。

これらは「闘っている自治体議員」から見て、簡単に言えば、

1：一度たりとも自治体議員をやって議会・行政刷新で闘った事なくトップになった者（河村や橋下）の「上っ面しか知らない」扇動であり、阿久根市長の場合は「市議になって改革運動をやったが、他議員や市当局からの抵抗を崩せず、たった3年でケツを割って議会から逃げ出して市長に鞍替えしてかつての復讐的にミニ小泉的扇動政治をやっているに過ぎない。

そういった彼らが間近に見る自治体議員は、たしかにボンクラ揃いで内心蔑視しながら利用しているのだろう。

2：本当に議会・行政を改善するには、まじめな左派・市民派・リベラル派議員を増やしていくしかないのに、それに目を背けて「機構いじり」の空論・暴論を弄んで市民を騙している。

3：彼らの行動は財界の後押しを受けて「首長独裁と少人数の翼賛議会」を作るためのもの。

ですが、間近に「真に闘う議員」を見ていない、日本の圧倒的多数の住民達は、行政・政治への不満をこういう騙し宣伝に簡単に絡め取られています。

「真に闘う議員」を評価する市民でも、「あんた以外の議員はボンクラだから定数も報酬も減らすべき」と考えてしまします。

▲「市民派議員」ですら、これにからめ取られる人が出ている危うさです。

神戸の若手市民派議員が「議員大削減！」を掲げる「みんなの党」（しかも財界・米帝の賛美追随勢力！）で参院出馬したり、関東の不当懲罰と闘っている新人女性市民派議員が、阿久根市長をHPで絶賛したり（！）など。

また、民主党自体、議員定数削減の積極派です。（反対派はいますが）

■これらのプロパガンダを粉碎していく「こちら側」の宣伝啓発方策を早急に考えるべきだ、そのために公正に国際比較出来る情報収集を行ない、論議をしていくべきだ、というのが戸田の提言です。

「闘う議員歴10年の有能議員」である私ですら、日当制・ボランティア議員になったら以前のような行政チェックは絶対に不可能だ、と確信するし、それは誰にも論破出来ない真実なのです。

要は、「世の人々はマジメな議員の仕事の実態を何も知らない」＝「マジメな議員の側も市民のそれを伝えれていない」ところに問題があります。

ただ、戸田は、「日本の自治体議員報酬は異様に高い！」、「他国は少人数やボランティアで議会をやっている」、という宣伝に対しては各国の事実を踏まえた的確な反論までは出来ません。

（各国の行政・議会の実状や形成過程、法制度の基礎も知らないので）

■「他国はともあれ、日本では今の議会制度を十分に活用しながら深化発展させていく事こそが大事だ。具体的には『真に闘う議員』を各議会で増やしていく事が決め手」、と戸田はまずは主張します。

「戸田と門真市議会・行政の闘いを見よ。情報公開をグイグイ進め、議員の出席手当合や市長の高額退職金を廃止に追い込み、併阻止して門真市を守った実績を見よ。『定数削減・報酬カット』思考ではこういう改善は不可能だ。それでもいいのか？」、と付言しつつ。

今の自治体議会で問題なのは、

- ★「昨日の議会で何が決まったのか、どういう論議がされたのか」が全く分からない。
(圧倒的多数がネット中継無し。多くがカメラ・録音機持ち込み禁止)
(都道府県議会や一部市議会ではネット中継あるが、本会議のみの場合が多い)
- ★議案に対して「誰が賛成で誰が反対か、が全く不明」、
(一部議会では公表しているが)

であり、「市民に知られないからロクでもない議員が横行できる」事であって、この重大問題に何ら関心を持たない者が、議会傍聴にも来ず、平日傍聴に来れない人でも議会内容を知る事ができるような議会報道（例えばネット中継）も求めずに、「議員が多い」だのなんだのとばかり文句付けするのは全くの筋違いだと、厳しく指摘もします。
求めるべきは「ガラス張り議会」であり、「民主主義の諸原則に則った議会運営」なのです。
(これ無しには「市民の各議員への正しい評価」や「民意の反映」はなされません)

しかしそれだけでは、阿久根市長や河村市長の全国的な扇動には対抗できません。

「こちら側」でせめて欧米と韓国台湾アジア、中南米くらいの概括的でもよいからそれぞれの議会・議員の地位と実状、行政との関係、法制度、歴史経過などを把握して、トータルに反論できるようにならないと対抗できない、と考えます。

マジメに闘う議員達がこの問題を考え論議して対抗宣伝・啓発の具体化を図っていく事が必要だと思います。

※大阪府内での統一自治体選挙は、橋下一派の「大阪都構想＝大阪市乗っ取り・橋下独裁樹立策動」との積極的な闘い
でなければなりません。

私は「橋下一派打倒！大阪都構想粉碎！」をから高く掲げて闘います。

(既にそういう趣旨の大看板を事務所ベランダに出しています)

↓↓↓

<http://www.youtube.com/user/todajimusho#p/u/70/S4u2ypC980c>

※アメリカ初のゲイの議員（暗殺される）を描いた「ハーベイミルク」を見たら、サンフランシスコの市議会議員は
「スーパーアドバイザー」と呼ばれて極く少人数、しかし大勢の秘書やスタッフが公費でついていました。

極少数議員＝膨大な得票がないと当選不可能＝集票マシン付き候補が圧倒的に有利＝小政党・少数派が圧倒的に不利＝多様な民意の反映が不可能

※ヨーロッパでは自治体規模が、人口 10 万以下が圧倒的多数らしい。

「人ではなく政党を選択する選挙」が自治体議会選挙でも多いらしい。

※「議員の職務とは何か？」の位置づけが違えば、議員のあり方も違う。

「市民への日頃の情報公開」の度合いや、「市民の労働時間の長さ」の違いによっても、「市民の関与可能性」が違い、議員のあり方も違うだろう。

★遂に門真市議選分析で実証できた！

議員定数を減らせば低レベルな組織議員の天下に！

戸田 - 10/12/11(土) 10:45 -

これは秋田講演に際して作成したレジュメを整理したもので、おそらく日本で初めての分析立証です。

実際の自治体選挙の結果（1991年～2007年までの5回）を基にして仮説を立証して「法則」を打ち立てました。

その「法則」を基にして「門真市の議員定数をもしも14に削減したらどうなるか？」の説得力ある予測を導き出した！

ちなみに「議員定数14」というのは、07年市議選以前の「定数28」の半分＝1/2であって、「議員定数削減は何をもたらすか」を考える時に非常に分かりやすい設定である。

（公明党らの言う「さらなる定数削減」は現行の22議席から10議席台に向かわせようとしている事に注意！）

それでは以下に記述していく。市民も議会・行政関係者もぜひ精読して欲しい。

【基礎データと考え方】

- 1：全当選者の得票総数 [A]とする。
- 2：全当選者の得票総数の中での「当選者の平均得票数」 [B]とする。 ([A]÷議員定数=[B])
- 3：当選者のうちの最低得票数 [C]とする
- 4：「当選者の平均得票数」に対する「最低当選得票数」の割合(%) . . [D]とする。 ([C]÷[B]×100=[D])

【仮説1】

議員定数を減らせば、その減らした割合の逆数だけ「当選者の平均得票数」[B]が増大するのではないか。

（例：定数を1/2にすれば、「当選者の平均得票数」[B]は2倍になるのではないか）

【仮説2】

議員定数を減らせば、その減らした割合の逆数だけ「当選者のうちの最低得票数」[C]が増大するのではないか。

（例：定数を1/2にすれば、「当選者のうちの最低得票数」[C]は2倍になるのではないか）

【仮説3】

別の角度から見ると、議員定数を減らしても、「当選者の平均得票数に対する最低当選得票数の割合(%)」[D]は変わらないのではないか。

（例：定数を1/2にしても、[D]は変動しないのではないか。）

【検証1】

門真市は、2003年市議選までは「定数28」が続き、2007市議選から「定数22」に減らされた。

. これは、22/28の割合だけ減ったので、その逆数は28/22=1.27である。

【検証2：実際の選挙データ】

◎1991年選挙（定数28）＜落選者4人＞＜投票率50.69%＞

[1991A]= 48468 票
[1991B]= 1731 票
[1991C]= 1231 票
[1991D]= 71.1%

◎1995年選挙（定数28）＜落選者3人＞＜投票率46.42%＞

[1995A]= 46961 票
[1995B]= 1677 票
[1995C]= 1169 票
[1995D]= 69.9%

◎1999年選挙（定数28）＜落選者7人＞＜投票率51.34%＞

[1999A]= 48515 票
[1999B]= 1733 票
[1999C]= 1313 票 (←これ戸田です！)
[1999D]= 75.8%

※門真史上珍しい大激戦の中、戸田が最下位で初当選！

◎2003 年選挙（定数 28）＜落選者 1 人＞＜投票率 44.92%＞

[2003A] = 46866 票
[2003B] = 1674 票
[2003C] = 1011 票
[2003D] = 60.4%

※戸田が史上空前のブッチ切りトップ当選！

◎2007 年選挙（定数 22）＜落選者 4 人＞＜投票率 45.56%＞ ■ 定数 8 減！22/28 に

[2007A] = 45668 票
[2007B] = 2076 票
[2007C] = 1424 票
[2007D] = 68.6%

※戸田が連続トップ当選。

【 検証 3：各データの変動について 】

◎「当選者の平均得票数」[B]について：

Bア：「定数 28」時代の[B]の平均=[B28]は、

[1991B]=1731 票、[1995B]=1677 票、[1999B]=1733 票、[2003B]=1674 票の平均で・・・1703.7 票 $\div$ 1704 票
・・・[B28]=1704 票 (Bア)

Bイ：「定数 22」時代の[B]=[B22]は、

[2007B]=2076 票=[B22] ・・・[B22]=2076 票 (Bイ)

Bウ：(Bイ)は(Bア)の何倍に増加したか？

$2076 \div 1704 = 1.218 \div 1.22$ ・・・1.22 倍 (Bウ)

Bエ：[B28]=1704 票に「定数減割合の逆数=1.27」をかけるとどうなるか？

$1704 \text{ 票} \times 1.27 = 2164 \text{ 票}$ ・・・2164 票 (Bエ)

◆B結論：定数を 28 から 22 に減らした時の実際の「当選者平均得票数」[2007B]=[B22]=2076 票は、
「逆数倍理論値 $\times$ 1.27」の 2164 票に極めて近い。

◎「当選者のうちの最低得票数」[C]について：

Cア：「定数 28」時代の[C]の平均=[C28]は、

[1991C]=1231 票、[1995C]=1169 票、[1999C]=1313 票、[2003C]=1011 票の平均で・・・1181 票
・・・[C28]=1181 票 (Cア)

Cイ：「定数 22」時代の[C]=[C22]は、

[2007C]=1424 票=[C22] ・・・[C22]=1424 票 (Cイ)

Cウ：(Cイ)は(Cア)の何倍に増加したか？

$1424 \div 1181 = 1.205 \div 1.21$ ・・・1.21 倍 (Cウ)

Cエ：[C28]=1181 票に「定数減割合の逆数=1.27」をかけるとどうなるか？

$1181 \text{ 票} \times 1.27 = 1499.8 \div 1500 \text{ 票}$ ・・・1500 票 (Cエ)

◆C結論：定数を 28 から 22 に減らした時の実際の「当選者のうちの最低得票数」[2007C]=[C22]
=1424 票は、「逆数倍理論値 $\times$ 1.27」の 1500 票に極めて近い。

◎「当選者の平均得票数に対する最低当選得票数の割合」[D]について：

Dア：「定数 28」時代の[D]の平均=[D28]は、

[1991D]=71.1%、[1995D]=69.9%、[1999D]=75.8%、[2003D]=60.4%の平均・・・69.525% $\div$
69.5%
・・・[D28]=69.5% (Dア)

Dイ：「定数 22」時代の[D]=[D22]は、

[2007D]=68.6%=[D22] ・・・[D22]=68.6% (Dイ)

◆D結論：定数を 28 から 22 に減らしても、[D28]=69.5%と[D22]=68.6%はほとんど変わっていない。

★以上の結果、【仮説1】【仮説2】【仮説3】は全て現実には適合している事が立証された！

すなわち、

【実証1】議員定数を減らせば、その減らした割合の逆数だけ「当選者の平均得票数」が増大する。

★定数を1/2にすれば、「当選者の平均得票数」は2倍になる！

【実証2】議員定数を減らせば、その減らした割合の逆数だけ「当選者のうちの最低得票数」が増大する。

★定数を1/2にすれば、「当選者のうちの最低得票数」は2倍になる！

【実証3】議員定数を減らしても、「当選者の平均得票数に対する最低当選得票数の割合（%）」は変わらない。

★定数を1/2にしても、[D]は変動しない。

【重要考察1：定数14になった時の[B][C]の予測】

●現在、公明党を中心に議員定数をさらに大幅に減らそうとする策謀がある。

20とか18に減らそうとするだろうが、議員定数削減の本質を見るのに、「定数14＝定数28時代の半分に減らされたらどうなるか？」をシュミレーションして予測を立てる事が極めて重要である。

●J1：定数14になれば、「当選者の平均得票数」[B14]は、[B28]の2倍になる！

すなわち、[B28]1704票×2＝3408票[B14]になる！

(●正確に言えば、[B14]は3400票前後に跳ね上がる！)

●J2：定数14になれば、「当選者のうちの最低得票数」[C14]は、[C28]の2倍になる！

すなわち、[C28]1181票×2＝2362票[C14]になる！

(●正確に言えば、最低当選ライン[C14]は2400票前後に跳ね上がる！)

【重要考察2：現在の各議員得票数から見て、定数14時の当選可能人数は？】

■K1：定数22になった2007年市議選の各議員各勢力の当選者得票数は以下のビラの通り

<2007年4/27ヒゲー戸田通信 当選特別号2>

http://www.hige-toda.com/_mado02/2007/tsuushin_tokubetsu2.PDF

■K2：2007年市議選当選者の各勢力ごとの得票総数と1人平均得票数は、

・公明党7人	：得票総数 16645 票	・・・	[公 2007 総数]
	÷7＝1人平均 2377.8	≒2378 票	・・・ [公 2007 平均]
・自民党系7人	：得票総数 12385 票	・・・	[自 2007 総数]
	÷7＝1人平均 1769.2	≒1769 票	・・・ [自 2007 平均]
・民主党系3人	：得票総数 5945 票	・・・	[民 2007 総数]
	÷3＝1人平均 1681.6	≒1982 票	・・・ [民 2007 平均]
・共産党4人	：得票総数 7209 票	・・・	[共 2007 総数]
	÷4＝1人平均 1802.2	≒1802 票	・・・ [共 2007 平均]
・戸田1人	：得票総数 2959 票	・・・	[戸 2007 総数]
	÷1＝1人平均	2959 票	・・・ [戸 2007 平均]

■K3：「定数14にされた場合に2007年当選の各勢力から何人当選する事が可能か？」

その下限は「各勢力の1人平均得票数」を[B14]「当選者の平均得票数」で割った数であり、上限は「各勢力の1人平均得票数」を[C14]「最低当選ライン」で割った数である、と推測するのが極めて妥当である。

以下にその数値を出していく。

■K4：「各勢力の得票総数」＝[2007 総数]を「定数14時の当選者の平均得票数」[B14]で割った数＝

定数14での当選可能下限人数は、

- ・公明党：[公 2007 総数] 16645 票 ÷ [B14] 3408 票＝4.884 人≒4.9 人≒5 人
- ・自民党系：[自 2007 総数] 12385 票 ÷ [B14] 3408 票＝3.634 人≒3.6 人≒4 人
- ・民主党系：[民 2007 総数] 5945 票 ÷ [B14] 3408 票＝1.744 人≒1.7 人≒2 人
- ・共産党：[共 2007 総数] 7209 票 ÷ [B14] 3408 票＝2.115 人≒2.12 人≒2 人
- ・戸田：[戸 2007 総数] 2959 票 ÷ [B14] 3408 票＝0.868 人≒0.88 人≒1 人

・・・・・・・・合計 14 人！

■ K 5 : 「各勢力の得票総数」 = [2007 総数] を「定数 14 時の最低当選者得票数」 [C14] で割った数 =

定数 14 での当選可能上限人数は、

- ・ 公明党 : [公 2007 総数] 16645 票 ÷ [C14] 2362 票 = 7.046 人 ÷ 7.1 人 ÷ 7 人
 - ・ 自民党系 : [自 2007 総数] 12385 票 ÷ [C14] 2362 票 = 5.243 人 ÷ 5.2 人 ÷ 5 人
 - ・ 民主党系 : [民 2007 総数] 5945 票 ÷ [C14] 2362 票 = 2.516 人 ÷ 2.5 人 ÷ 3 人
 - ・ 共産党 : [共 2007 総数] 7209 票 ÷ [C14] 2362 票 = 3.052 人 ÷ 3.1 人 ÷ 3 人
 - ・ 戸田 : [戸 2007 総数] 2959 票 ÷ [C14] 2362 票 = 1.252 人 ÷ 1.3 人 ÷ 1 人
- ・・・・・・・・合計 19 人

※これでは定数 14 より 5 人も多い！

つまり、この設定は各勢力それぞれに「甘い」設定であり現実的ではない、という事になる。

という事は、K4 : の設定の方が現実的だということになる。

【重要考察 3 : 定数 14 では戸田さえ当選危うい！「第 2 の戸田」は絶対当選できない！】

◆ L 1 : 上記の考察予測からみて、「定数 14 にした場合の各勢力の当選予想人数」は、K4 : の「当選可能下限」 $\pm \alpha$ と見るのが妥当である。

◆ L 2 : すなわち、議員定数を 14 にした場合は、

◆ A : 戸田でさえも落選すれすれになる！

◆ B : 「第 2 の戸田」というべき改革派新人はほぼ絶対に当選できない！

◆ C : 従って、戸田が当選できたとしても会派を組む新人がおらず、

「1 人会派を認めない」現行制度が続く限り、戸田は永遠に会派を組めず、永遠に議運や会派協議から排除され、各種特別委員会からも排除されてしまう！

◆ D : これこそが、自公民の会派議員達の「定数削減」の本当の狙いなのだ！！

◆ L 3 : 議員定数を 14 にした場合は、公明党は楽々と 5 議席以上を占める！

現状で公明党は「上位独占でなく単に当選するだけだったら 8 人楽々、9 人でも可能」な集票能力を持っている！ 保守系や民主系候補に票を回して恩を売って縛る戦術を長年取ってきた。

従って、議員定数を 14 にした場合に 5 議席楽々、6 議席も容易である。

定数 14 に占める議席占有率は、5 議席の場合 : $5 \div 14 \times 100 = 35.71\% \div 36\%$

6 議席の場合 : $6 \div 14 \times 100 = 42.85\% \div 43\%$

◆これは現状の 32% (22 議席中 7 人) よりもずっと高い！

◆他陣営にはマネの出来ない「票割りの芸術」を駆使すれば 7 人当選も可能で、それなら議席占有率 50%！！

(この場合は他陣営には票を回さないで公明党に全部集中)

◆ L 4 : 門真では戸田と共産党のみが「革新勢力」だが、その議席占有率は、

定数 28 時代は計 6 議席で $21.428\% \div 21.4\% \div 21\%$

定数 22 になって計 5 議席で $22.727\% \div 22.7\% \div 23\%$

定数 14 になって計 3 議席だと $21.428\% \div 21.4\% \div 21\%$

定数 14 になると「戸田の落選や、戸田が当選しても共産党が 1 人しか当選しない」ことも十分に起こり得る。そうすると革新勢力は 2 議席のみとなり、議席占有率が $14.28\% \div 14.3\% \div 14\%$ に激減！

◆ 繰り返すが、定数 14 では戸田さえ当選危うい！「第 2 の戸田」は絶対当選できない！

投票率の激増も含めて有権者の意識と投票行動が革命的に変化しない限り、そうであり、そして有権者の意識行動の変化は「真剣議員」が 2 人 3 人と増えて議会・行政を改革していく事を間近に見ない限り、望ましい方向には進んでいかない。これが社会的な真実である。

◆定数削減は「組織票で議席を得るが中身が低レベルな議員」による議会操縦をますます容易にし、「真剣議員」の排除・既存会派談合政治を固める方向にしか作用しない毒物である！

■有権者意識は少しずつしか変わらない。低レベル議員を淘汰する連立方程式は・・・

戸田 - 10/12/11(土) 15:17 -

「定数削減問題に関わる重要な考察」の続きです。「いよいよ本論」と言っていいたいかもしれない。

「議員の質の向上」、「議員にかかる経費の費用対効果の向上」、「税の無駄遣い排除」を実現するにあたって難しい点は、「議員は選挙でのみ選ばれる」＝「有権者の意識が良くならない限り議員は良くならない」、という点です。

「議員定数と税金使用の効率化」の問題は、いくつもの要因を持った、結構複雑な連立方程式であり、単純思考では決して改善しないどころか却って悪くしてしまいます。

端的な話、単純に「議員定数を削減して支出削減」すれば、その結果は必ず「議員としてレベルの低い、組織票だけで当選する議員達」の比率をより高め、「真剣議員」の比率を低めるかゼロにしまい、それによって何億円何十億円、場合によっては何百億円もの無駄な支出を生み出してしまいます。

これは絶対に間違いありません。

そうってから文句を言ったって遅いのです。またそういう膨大な無駄支出が生まれた場合、「定数削減せよ！」と叫んだ議員や市民達はどうか責任を取るのでしょうか？ 責任を取るなんて全くしないのは目に見えています。

多くの市民にとっては迷惑この上ない話ではありませんか？

【重要考察4：有権者の意識や行動は少しずつしか、時々しか変わらない】

この考察は国政選挙ではなく自治体選挙、それも自治体議員の選挙に焦点を当てて考察したものである事を、まず断っておきます。

M1：日本社会の現実を見ていると、残念ながら有権者の意識や行動が劇的に連続的に良くなっていくことは期待できない。

棄権者が劇的に減って投票率が劇的に増えていく事は期待できないし、投票に行く人は行く人で、集団からのしがらみや惰性から脱却して「個人の判断で」人物本位・政策本位で投票する人が劇的に連続的に増えていく事も期待できない。

M2：もちろん大きな変化が起こる事は、時々はある。

門真で何の組織票もない（連帯労組家族 30 票程度では組織票と言えないだろう）、在住歴 8 年しかなく、逮捕歴のある左翼活動家の戸田が最下位とはいえ当選できたのは、たしかにそんな「時々起こる変化」のひとつだろう。

ただこの時は、門真史上珍しい 7 人落選の大激戦で、かつ共産党が無理して 6 人立てて票割りに失敗した、という偶然も幸いした。

より本質的な「大きな変化」はそんな戸田が 2003 年市議選でブッチ切りトップ当選した事であり、05 年逮捕・06 年 1 審有罪にも拘わらず 2007 年市議選で連続トップ当選を果たした事だ。

しかし同時に、戸田のあとに続く「真剣議員」を新たに生み出す程には有権者の意識は変わらなかった。

それなりの数の市民が、戸田の活動によって議会や行政への認識を高めたものの、それを反映した市民運動までは出来なかったし、投票率が 50% 台後半に上がっていく事もなく、公明党上位独占が相も変わらないのみならず、「議会で質問しない給料泥棒議員」として戸田が大批判し続けた大本議員が 2007 年市議選では却って得票を増やして、かつてなかった得票数 4 位に躍り出る事さえ起きている。

他市の例でも、尼崎市や箕面市など「市民派議員」が多数誕生し定着しているような一部例外はあるが、たいがい 1 人かせいぜい 2 人当選して打ち止めになっている。

情報公開を積極推進する「市民派議員」が 1 人も生まれない自治体の方がまだ圧倒的多数であり、当選ラインが 7000 票前後で中選挙区の数議席を奪い合う政令都市においてはそういう「市民派議員」が皆無か、いても 1 人 2 人という場合が多い。

M3：悪い方向への激変なら（扇動家の扇動によって）最近立て続けに起こっている。

「議会内容の全面的公開」や「議員をしっかり仕事させる仕組み作り」を求めるのではなく、独裁指向（＋憲法擁護義務無視＋新自由主義）首長に扇動され、日頃の不満や閉塞感を議会にぶつけて「議員を減らせ！」と叫ぶ「市民運動」という「有権者の意識や行動の激変」なら、名古屋や大阪、阿久根市で沸き起こっており、全国に波及している。

しかしこれは明らかに「悪い方向への激変」であり、税金無駄遣いを拡大する方向にしか働かない性質のもの

である。（独裁的首長へのチェック効かず、財界言いなり、貧困と格差拡大の政治に流れる）

M4：日本の有権者のこういった性質はしかし、生来のものでもなければ自然なものでもない。

この社会体制の中で、マスコミや行政・議会・議員、各種政治勢力の恣意的報道・無報道や情報隠ぺいによって自治体議会に対する無知無関心や誤解が刷り込まれてきた結果の産物に他ならない。

遠い東京でやっている国会の事、政府の事は（情報操作が甚だしいとはいえ）連日報道や中継があるのに、なぜ最も身近で地域生活上影響が大きい自治体の議会や行政の事がロクに報道されないのか？

この実態になぜ「地域の生活者達」は怒らないのか、不当だと思わないのか？

【重要考察5：「組織」だから悪いのではなく、低レベル議員でよしとする組織だから悪いのだ】

■N1：犯罪団体でもない、合法的な政党、宗教団体、業者団体、労働組合、住民組織、市民団体、運動団体等々自体が悪いはずがない。

それらはそれぞれに「ある課題に基づく集団」であり、それらが集団の利益の向上＝日本社会の改善との認識で議員を輩出して行政を良くしようと考え集票する事自体は、何ら悪くないどころか全く正当な事である。

■N2：いわゆる「市民派」標榜の御仁の中には「私は何の組織にも属していません！」という事をまるで「正義の証明」みたいに高唱する人がいるが、これは全くの間違いである。

本当は「地域社会を良くし日本を良くする組織」を作り強化する事に努力すべきだし、そういった組織の代理人とか代弁者として議員をやるべきだろうと、戸田は思う。

もちろんここで言う「組織」とは、「緩やかな結合」、「ネットワーク」、「個人を大切にする民主的で分権的な運動」等々の様々なものを含んでいる。

それがどんなに緩やかなものであれ、2人以上の人間が協力し合うものは社会的に「組織」という言葉で表現してよいものだ。

だから連帯ユニオンの路線や運動が非常に正しいものだと確信している戸田は、胸を張って「自分は連帯ユニオンの組織議員だ」と表明してきたのである。

■N3：議員や候補者に関わって言う「組織」とは、会員や役員が定まっている「後援会組織」であろう。

名称や形態は様々でも選挙の時の集票と議員・候補者への種々の支援を行なう組織である。

各種の政党、創価学会などの宗教団体、連合や日教組・連帯ユニオンなどの労働組合、各種の業者団体、経営者団体、市民運動団体、自治会や県人会、同窓会、それに「〇〇後援会」的なそのものズバリの団体等々だ。

■N4：戸田の場合、出身母体・支援組織として連帯ユニオンがあるが、門真での集票力は微々たるものだし、いわゆる「後援会」を全然持っていないので、他の陣営に較べれば「集票組織無しで浮動票頼み」一本でやっていると言える。

戸田以外の議員・候補者は全て「ちゃんとした集票組織」を持っている。

■N5：問題なのは、（共産党陣営以外の）全ての集票組織・後援会組織が、自分達の議員に対して「議会でしっかり質問し、議会内容と自分の議決行動をちゃんと公表し、議会を市民常識的に民主的に運営してくれよ」という事を全然求めている、ということだ。

自分達の議員に求めるのは、自分らの自慢と勢力誇示のために「議員でいること」自体がたぶん一番大きく、次いで行政情報などを流したり、自分らの意向を行政に反映させたりする「利益代理人」の役割である。

「議員やその家族に頼まれた義理を果たして恩を売る」のも結構大きそうだ。

後援会や支持者の意識がこの程度であれば、「人前で討論が出来ない」、「自分で活動報告の文章が書けない」、「問題意識が鈍いし勉強もしない」、「保身のために支持者のご機嫌第一で、市民全体の事や公益のために汗を流そうとしない」・・・等々の議員が出来上がるのも当然だ。

■N6：そうして出来上がった議員達は、そうした自分らの在りよう（レベル）に何ら問題を感じようとしな

なぜなら、その程度のレベルでしかなくともちゃんと議員として当選できるし、行政も世間も議員様々で扱ってくれるのだから。

そうした在りように批判をしてくるヤツがいたら、とくにそいつが同じ議会の議員であれば、極めて腹立たしい感情をもって当然であろう。

「そんな文句を言うのはお前だけだ」と確信しているだろうし、「こいつがワーワー言っ

●削減害悪 1：組織票無き新人の当選も真剣議員の会派形成も不可能に！ダメ議員安案に

戸田 - 10/12/13(月) 7:28 -

門真の場合を例に取れば、上で分析したように「定数 14＝現状の 8 減＝定数 28 時代の半分」にすればどうなるか、を見れば良く分かる。

次に策動されている定数削減が「定数 14 にまではいかない」としても、定数削減をすればするほどその結果は「定数 14 シミュレーション」に近付いていく。

すなわち、

●M1：既存の集票組織の組織候補以外の、これといった組織票のない「ふつうの市民的新人」の当選がどんどん不可になる！

定数 14 になれば、最低当選ラインは 2400 票前後に跳ね上がる！

これでは有名芸能人か何かでない限り、既存集票団体以外の新人は門真では絶対に当選できない！

「こんな議会や行政を変えてやる！」と主婦や青年が一念発起して出馬しても、

- ・その人が門真育ちで親族や各種同窓会、自治会や仕事仲間などに支援されても
- ・その人がビラを書けて、街頭演説も出来る人でも、

絶対に当選出来なくなる。

当選の出来る「新人」とは、既存の組織票議員の後継者の「新人」に限られる。

既存集票組織にしても定数削減が進めば進むほど当選可能人数が少なくなり、現職を続けたい議員同士で「どちらが引退するか」の調整が大変になるのだから、新たな拡大はほぼ不可能になる。

●言い換えれば、「1999 年市議選での戸田当選」のような「ハプニング」はもう絶対に起きない、ということである。その新人が有名芸能人か何かでない限り。

定数が 22 になった 2007 年の市議選では最低当選ラインが 1424 票に跳ね上がってしまい、新人ながら門真の PTA 協議会会長など歴任し民主党の推薦を受けた石谷さんでさえ当選できなかった（1017 票で次点）。

定数 14 に近付けば近付くほど、現職引継以外の「新人」はもっと当選不可能になる。

●M2：現状の定数 22 でさえ、「戸田と会派を組めるような真剣派新人」は当選困難で、

「戸田は当選できても会派は組めない」＝戸田を議運からも決算特別委や行革特別委、会派代表者会議からも全て排除できる体制である。（門真では 1 人会派は認めず必ず 2 名以上必要）

●定数 14 に近付けば近付くほど、戸田自身でさえ当選が不確実になり、「戸田と会派を組めるような真剣派新人」は絶対に当選不可能になる！

低レベル議員のままで楽チンに 4 年間で過ごしたい議員やその支持団体にとって、これは大変にありがたい事である。

◆定数削減は「組織票で議席を得るが中身が低レベルな議員」による議会操縦をますます容易にし、「真剣議員」の排除・既存会派談合政治を固める方向にしか作用しない毒物である！（上記投稿の◆L4：）

▲削減害悪 2 : 「一念発起新人の当選不可能」は市民を白けさせ、投票率増加も望めない

戸田 - 10/12/13(月) 8:16 -

創価学会員でも共産党員でもなく、自民党系議員や民主党系議員の後継者でもない、「一念発起型」の新人は、門真でそこそこ人脈を持っていて人望のある人でも当選不可能、となれば「ふつうの市民」は白けてしまう。

公明党でも共産党でもない、自民党員や民主党員でもなくその集票団体員でもない、戸田みたいな「鮮烈左翼」支持でもない「ふつうの市民」にとっては、自分の友達や親しい親族、主婦仲間、ママさん仲間、同好会仲間、仕事仲間が出馬した場合に市議選への関心が最も高まると思われる。

そして自分が応援した新人が当選して頑張ったら、議会・行政への関心と理解がさらに高まるだろう。

しかし「定数削減」は、そうした「自分らの身近な仲間の当選」をどんどん不可能にしていくのだから（定数 14 では絶対的に不可能に！）、その分市民を白けさせる。

「どうせ現職議員やその後継者で議席が埋まってしまうだけ」との感覚になる。

これでは投票率も上がらないだろう。

門真市議選では、1999 年選挙以降の 3 回の市議選では、＜落選者 7 人＞の 1999 年選挙の＜投票率 51.34%＞が最高で、あとは 2003 年選挙の 44.92%、2007 年選挙の 45.56%と、45%前後を続け、今後上昇する気配もない。

これが、もっと定数削減して「どうせ現職議員やその後継者で議席が埋まってしまうだけ」になればどうなるか？

投票率は下がることはあっても上がる事はあまり考えられない。

▲P 1 : 「投票率が低いことによって一番得する勢力はどこか？」と言えば、それはもちろん公明党・創価学会である！

「組織的集票力の強さ」が自慢の公明党・創価学会は、ホントは「池の中の棒クイと同じ」で、水面（投票率）が低い時にはグンと突き出て目立つが、水面（投票率）が上がれば姿が見えなくなってしまう。

投票率が低い事によって、公明党・創価学会は実際の有権者比率の 2 倍の力を発揮しているのだ。

定数 28 時代の議席比率 28.6%、定数 22 時代の議席比率 32%（しかもいずれも当選上位にズラリと並んで！）は、そうして出来た数字である。

▲P 2 : 市町村の議会選挙は、「ふつうの生活者」が一念発起して出馬して頑張れば当選できるようにしておくべきである。

そうしてこそ、住民の議会や行政への関心と参加が高まり、低レベル議員の淘汰が行なわれるし、既存議員とその支持者や集票団体も「議席維持のためには議員としての質を上げねばならない」との認識を持って自己改革に取り組むようになるのである。

■削減害悪 3 : 低レベル議員と支持者への変革圧力を減じ、自己改革の動機も削ぐ

戸田 - 10/12/13(月) 9:42 -

Q 1 : 定数削減が進むと同時起こって来る事は、

1. 既存会派内での出馬人数削減のための「調整」（暗闘もあり得るが）
2. 出馬人数が減るから引退議員の票田の分配をして、継続議員にとっては「新しい支持者との顔つなぎ・引継ぎが必要になる。（議席継承の新人議員にとっても引退議員支持者の引継ぎが不可欠）
3. 当選ラインが上がるわけだから、集票行動は今まで以上に必死にならないといけない。

「従来からの支持者だけでは当選できない！」のだから。

という事である。

ここでは、「情報開示議員への自己刷新」だとか「従来の会派談合による情報封鎖や無所属議員排除を改める」だとかの「議会改革意識」は生まれなくて、

・引退議員がやってきた路線に逆らわずに従来の会派政治を続ける。

・「とにかくにも票固めが第 1！」

の意識の方が、議員・候補者はもちろん、支持者達にも強く蔓延する。

Q 2 : その上、定数削減が進めば「戸田に会派を作られる心配が全く無く」なり、「一念発起型の新人もますます当選出来なくなる」し、旧来型の「低レベル議員製造意識」で票固めさえすれば議席は安泰、議員になってからも

戸田や共産党の言うことは多数決や会派談合政治で今まで以上に楽々と封じ込められる、という状態になるのだから、彼らへの「改革圧力」は弱まるし、危機感が無くなるから自己刷新の動機も削がれてしまう。

Q3：そして「勝てば官軍」、「当選すれば4年間は安泰！」である。

今の定数22でも「戸田会派」は絶対出来ないし、共産党は会派談合政治に引っ張り込んだままで口先だけで議会改革を言うだけ、定数14にでも出来れば「戸田会派」どころか戸田本人さえ落選させられるかもしれないし、「野党勢力は2人だけ」という事態も期待できる！

戸田と共産党で3議席いたところで、定数22時代の合計5議席よりもずっと押さえつけやすい！

(定数28時代の合計6議席よりもはるかに楽チンだ！)

Q4：一般市民も議会に対して「どうせいつもの議員達がやってるだけ」、「番狂わせのない選挙じゃ興味が湧かない」、と白けた気分になる事が否めない。

これも低レベル議員とその支持勢力に取っては結構な状況である。

●削減害悪4：指標で明白！議会の行政チェック力量が減少し、行政にとっては楽チンに

戸田 - 10/12/13(月) 11:48

戸田と共産党議員が行政をチェックし改善させる力量を1人平均10とすれば、自公民の与党議員の平均力量は戸田が見るところせいぜい3だ。「4」や「5」の議員もいるが、「ゼロ」や「1」の議員も多いので、平均すれば「3」になる。(これでもちょっと甘い点数かもしれない)

戸田や共産党は個人としては目一杯頑張ってきた。これ以上チェック力量をアップさせる事はそれほど期待できない。(共産党議員の何人かはもう少し伸ばす余地があるかもしれないが)

R1：で、この仮装指標を使って「門真市議会の行政に対するチェック力量」を計ってみると、

◎定数28時代：戸田+共産党5人で合計6人=60

自公民与党議員22人で、 $3 \times 22 = 66$

合計チェック力：126(1)

(2003年市議選～2006年度末の「野党議員最高比率時代」で)

◎定数22時代：

戸田がいた時は、戸田+共産党4人で合計5人=50

自公民与党議員17人で、 $3 \times 17 = 51$

合計チェック力：101(2)

戸田失職後09年6月補選・五味議員復活以降は、

共産党4人で40

自公民与党議員18人で、 $3 \times 18 = 54$

合計チェック力：94(3)

◆「定数22」になると、「戸田当選+共産党2人」という最もありそうな状況では

戸田+共産党2人で合計3人=30

自公民与党議員11人で、 $3 \times 11 = 33$

合計チェック力：63(4)

■何と、定数28時代と較べてチェック力半減(合計126→63)ではないか！

戸田が在職の定数22時代と較べても(101→64)約4割も減るではないか！

R2：定数減ではなく、定数22のまま、「低レベル議員のレベルアップ」を図ったらどうなるか？

★現状の自公民与党議員の行政チェック力「3」を「5」にアップできたら、 $5 \times 18 = 90$

これに共産党の4人=40を加えると、合計チェック力：130(!)・(5)

★★そして定数22のまま2011年市議選で戸田が復活当選し、共産党が4人当選なら

戸田+共産党4人で合計5人=50

それ以外の自公民与党議員 18 人で、 $18 \times 5 = 90$

合計チェック力：140 (!)・・(6)

R 3：行政チェック力のうち、(1) から (6) のどれが市民にとって良いのか、どれが最悪なのかは、この指標数字を見れば明白だ。

今の与党議員の低レベル状態を改善させて、現状の「平均チェック力3」を「平均チェック力5」に向上させることしかない！

・・・それだけ向上させても戸田＋共産党の平均のまだ半分であり、「さらに伸びる余地十分」(笑)なのだし。

◆それを実現するのは、上に提起した「議員に対して実績主義・成果主義を導入して市民から勤務評価してもらう仕組み」の構築である！

●上に解説したように、議員定数削減は与党議員・支持者達の改革を阻害して「低レベル議員製造」を維持拡大するだけであり、「百害あって一利無し」の愚作である。

R 4：市民はほとんど意識しない事だが、チェックすべき行政規模が変わっていないのにチェック役の議員の数だけ減らしたら、チェックの密度はどうなるか？ という問題がある。

一番端的な例が常任委員会での審議だ。

従来は4つの常任委員会に分割して膨大な行政内容を審議してきた。

それが定数 22 になって、「4つでは1委員会に4～5人の議員（委員長を除けば3～4人）しか配置出来ず手不足になる」という事で（戸田失職後の 09 年度から）3つの常任委員会体制へと改変された。

これが定数 14 にでもなったらどうなるか？

3つの常任委員会のままでは、「1委員会あたり3～4人、委員長を除けば2～3人」となってしまう、多様な視点からの審議がしにくくなる。

共産党は良くて2人当選だが、どれかの常任委員会には入れなくなってしまい、市民的には大きな欠損になってしまう。

また1委員会あたりの審査範囲が増大したのに、配置議員が少なくなるのだから、議員1人当たりの負担が大幅に増加して、与党議員のチェック力量を向上させたとしても、議会総体としてのチェック力量は大幅に低下してしまう。

R 5：◆「議員が大幅に減る」というのは、行政当局にとっては「大変気が楽になる」話である！

低レベル与党議員が大半とはいえ、28人の議員を相手にするよりは22人、22人を相手にするよりは14人の方が、ずっと楽にスイスイと行政が進められる。

しかも議員14人になってくれたら野党議員はせいぜいたったの3人で済む！

◆しかし「行政の楽チン」は「市民の危機＝無駄遣い政治蔓延の危機」と用心すべき事だ！

◆また「行政の楽チン」は「特定議員・勢力と行政との癒着」と一体である場合が多い。

「低レベル議員」が議会を牛耳り、情報封鎖を続ける議会が一般市民の暮らしを良くできるはずがない。

R 6：こうなれば、何十億円、何百億円の無駄遣いもどんどん垂れ流しである。

議会でのチェックや歯止めが十分に出来なくなってしまうのだから。

もともと議会の総経費は市の支出の1%。そのうちの議員の人件費を削った所で全体の0.1%とか0.2%程度の「支出削減効果」しかない。

しかしその削減は、こうしてほぼ確実に何十億円、何百億円の無駄遣いの増加となって市民に跳ね返って来るのである。

まともな市民ならどっちを選ぶのか？

「議員定数削減」で「低レベル議員製造システム」を存続して何十億円、何百億円の無駄遣いをもたらすのがいいのか？

今の定数で「議員に対して実績主義・成果主義を導入して市民から勤務評価してもらう仕組み」を導入して「議会全体の行政チェック力を向上させて無駄遣いを阻む」のがいいのか？

答えは明らかではないか？

(戸田個人としては、意欲ある新人が当選し易いように定数を28に戻すべきだと思うが、残念ながら昨今の情勢

ではそれは無理なので「これ以上の削減は断固阻止！」という立場からものを言っていく事にした。）

☆ 議員こそ実績主義成果主義で淘汰すべき！ 給料泥棒議員を作り続ける一部有権者の責任

戸田 - 10/12/13(月) 0:51 -

市職員に対して「公務員にも成果主義を導入して勤務評定すべし」などと偉そうにのたまう与党議員達がいる。質問もしない、行政チェックもしない、議員としての仕事をロクにやっていないあんたらがどの面下げてそんな事言えるのか、とその鉄面皮ぶりに呆れてしまう。

数字や効率で計り難い・計るべきでもない職員の業務よりも、議員に対してこそ実績主義・成果主義を導入して「雇い主」たる有権者市民から勤務評価してもらい仕組みを整えるべきだろうよ。

やり方は極く簡単でさしたる経費もかからない。たいそうな「システム構築」も要らない。

次のようにして市民に情報を不断に提供して評価を仰ぐようにすればいい。

1：「議会だより」に質疑や質問をした議員、「討論」を行なった議員の氏名を載せる。

これは本会議についても、常任委員会・特別委員会（決算や行革）についても行なう。

- ・本会議一般質問については、質問の項目と各概要を載せる。（答弁概要も）
- ・委員会については、質疑の概要と答弁概要、所管事項質問のタイトルと答弁概要を載せる。
- ・紙の「議会だより」は紙面限界のため簡単にせざるを得ないが、HP「議会だより」ではもう少し詳しく載せる。

2：これだけだと「質問回数はしてない（少ない）が他の面で活躍している」と不満がる議員もいるだろうから、 毎年1回、「議会だより」か何かで（紙とHP）、全議員に「この1年の自分の活動や成果の報告」を自己申告で書かせて公表する。

紙で600字以内、HPで1000字以内とかの字数制限をつけて、各議員に提出してもらう。

提出は任意でよいが、出さない議員は出さないなりの評価を受けることになる。

また、各議員の報告文に批判や異論がある他の議員や市民は、自分のブログなどで批判を公表したりすればいいから、鉄面皮議員でも余りデタラメな事は書けないはずだ。

◆以上の事を1任期4年間続ければ、「給料泥棒議員」はかなり淘汰されるはずである。

■「市民目線」とか「市民感覚で」というならば、こういう所にこそ目を付けるべきであり、こういう事を全く考えずに単に報酬が高いとか人数が多いとかの批判だけしている「市民感覚」など全く浅薄なものでしかない。

なぜこういう事に目を向けないのか？

◎戸田は（近日中に画像アップするが）講演レジュメ1ページめに

クイズ1：「人口20万人の都市には警官が50人必要」と法律で決まっていると仮定します。住民の安全と財産を守るため、市民もそれに納得しているとします。

ところが、が調べてみると50人の警官の8割くらいは警官の資質に欠け、しょっちゅうさぼっている事が判明しました。

さて、どうすればいいと思いますか？

1. 資質に欠ける警官をクビにして、街の警官の定数を大幅に削減する。
2. 資質に欠ける警官をクビにして、今度からは警官の勤務実態を公開的に点検し、質の悪い警官をクビにできるようにする。

3. 「警官も身を削る改革」を宣伝して、警官の定数を1割削減する。（問題発覚警官の大多数は留任させて）とクイズを出した。↓↓↓

◎11・28秋田講集会6：戸田講演5、の開始7：30秒あたりから。

<http://www.youtube.com/user/todajimusho#p/u/4/L441bKdWzwU>

もちろん誰が考えても妥当な答えは2.だ。

「住民の安全と財産」のために「20万都市には警官が50人必要」との規定が法で定められ、住民も納得しているのだから、警官定数を削減して安全を脅かす選択を誰もするはずがない。

問題になるのは警官の資質をいかに高めるかの方策のみ。

戸田が言いたいのは、じゃあなぜ議員の場合は「資質を高める」・「ダメ議員を淘汰する」方策論議にいかずに、「定数削減」ばかりに話がいつちゃうの？ と言うこと。

それは「議員とは何をすべきものか」を知ろうとせず、「議員なんて飾り物さ」という意識の方がはるかに強いからだ。

「飾りもの」なら人数が少なく人件費がやすい方がいいだろう、という考えにはまってしまっている。

「議員は少なくてもいいのなら、5人でいいだろ、3人でもいいだろ。じゃあ3人にしたらどんな連中が議員になるんだ？ 門真なら公明党が2人、自民党が1人。そんな議会構成でまともな行政チェック＝税金の使い道チェック

や市民の声の反映が出来るとでも言うのかい?！」

・・・と、戸田は「議員定数削減論者」に問いかける事にしている。

◆そしてぜひ考えてもらいたいのが、質問しない・行政チェックもしない「給料泥棒議員」に対して多くの有権者が「そんなの排除せよ!」と怒っても、こういう議員に投票して当選させ続ける有権者達がいる、という問題である。

「給料泥棒議員」の典型が自民党門真支部長の大本郁夫議員だ。

1979年当選以来連続8期32年目の大本議員は、この32年間、常任委員会での質疑質問ゼロ!

本会議質問は2000年3月議会での「会派代表質問」をやったのが実に6年ぶりの本会議質問で、←「ヒゲ-戸田通信15号」(2003年3/3)

http://www.hige-toda.com/_mado02/2003/tusin2003-15/tusin15.htm

なんとそれ以降、本会議質問ゼロ!委員会での質疑質問ゼロ! というものすごさだ。

(おまけに議長として戸田への発言禁止命令などの攻撃、門真市破壊の合併策動推進など、他にもマイナス査定すべきことがテンコ盛り!)

こういった大本議員の給料泥棒実態を、戸田は2007年市議選でさんざん訴えた。

「役員手当も含めて大本議員は年間報酬平均1200万円は下らない。4年間で4800万円だ。大本議員をまた当選させるという事は、今後4年の任期で4800万円からの税金浪費をする事だ。そんな事をしているんですか?!」、と盛んに訴えた。

しかし選挙結果は、必死になった大本議員が「今度で最後だから何とか当選させてくれ」と走り回り、人気の高い奥さんが頭を下げまくって同情を引き、過去最高の「4位当選」という大勝利を得たのだった。

こんな給料泥棒議員に2390人も有権者が投票して8期連続当選させたのだ!

(得票数は正確には2398票。本人と家族等をのけて2390と表現した)

で、当選した大本議員は、戸田が予測したように、2007年4月当選以来、本会議でも委員会でも今まで一度も質疑質問をしていない!

(07年度・08年度とも議長になった時は本会議質問はできないが、それ以外の本会議や4年間の各所属委員会では質問しようと思えば質問できるのに)

議会質問以外の面でも、戸田が議員であった09年3月までの間には議会や行政にマイナスのことしかしていないし(戸田の評価としては)、それ以降も同じだろうと思う。

この2390人の有権者の行動が、人口13万5000人門真市で4年間で約4800万円の税金浪費を生んだ事になる。

2003年市議選までの定数28時代は1500票前後で中間あたりで当選していた大本議員に約800人も投票する有権者が増えたのだ! 「質問しない議員」として勇名になっているにも拘わらず!

800人増えるのではなく500人減っていたならば、それが民主党推薦新人の石谷さんに回っていたならば、石谷さん初当選・大本議員落選となり、少なくとも大本議員当選よりは税金が有効に使われたであろうに・・・。

参考:2003年選挙結果

http://www.hige-toda.com/_mado02/2003/tusin2003-4tokubetu/2003-5-9.htm

2007年選挙結果

http://www.hige-toda.com/_mado02/2007/tsuushin_tokubetsu2.PDF

大本氏を議員につける事によって何か得する人々、これは「利益共同体」として行政チェックとか議会質問など全く関係無しの「確信犯」達だが、そうではない有権者達、「奥さんがいい人だから」、「本人や奥さんに頭を下げられたから」、「ご近所だから」、「所属団体が同じだから」、「今までずっと大本支持できたから」、「何となく」・・・などのモヤモヤとした支持で(税金浪費になる事など考えずに)投票した人たちが数多くいる事が、より問題だと思う。

他の多くの有権者がいくら「こんな人物を議員に雇ってはダメだ」と憤慨しても、これらの「モヤモヤとした支持」の有権者が「税金から高額な報酬を払う専門家として大本氏がふさわしいかどうか」をしっかりと考えてくれるようにならないと、低レベル議員が議会を牛耳って低レベル=税金浪費議会が続く事になってしまう。

■ これらの有権者の責任は大きい、すぐにそれを改善する特効薬はない。

全議員の仕事ぶりを公開しながら啓発宣伝を続けて「議員という専門家を選ぶ鑑識眼」を養ってもらうようにする他ないだろう。

大本議員の例は、その最も分かりやすい端的な例として挙げたが、他にも似た例はいくつも門真市議会では転がっている。

そして議員定数を減らせば確実にこういう低レベル議員の比率が増え、それを打破しようとする正義派新人はますます当選不可能になっていく。

それでいいのか？！ いいはずないでしょ。